

平成 30 年度 国立中央青少年交流の家

富士のさと わくわくキャンプ

体験活動を通じて「生きる力」を身につけよう

平成 30 年 9 月 8 日 (土) ~ 9 月 9 日 (日) 1泊 2日

○目的

体験活動を通じて、子供たちの自主性・協調性・基本的生活習慣を育み「生きる力」を身につける。

ボランティア養成研修の参加者等が身につけた内容を子供対象のキャンプで実践しボランティアのスキルアップを図る。



【セッションごとの話し合い】

○本事業の仕組み

当所で養成したボランティアを中心に子供対象のプログラムを企画・立案し当日の運営をする。



【横断幕の作成】

○キャンプの企画立案

立候補のあった 19 名の企画メンバーと 2 名の実習生を 5 つのセッションに分け、全体進行班を中心に各セッションごとにお互いにメール等で情報共有しながら、以下のことを行った。

- ・プログラムの選定、構成
- ・プログラムデザインシートの作成
※ねらいや手順、想定されるリスクと対応などを記載
- ・職員とセッション別ミーティング
- ・全体進行表、セッション別日程表の作成
- ・実地踏査の実施 等



【プログラムデザインシート】

○キャンプ当日の運営

当日の運営は、実習生を含む総勢 21 名（ボランティア 19 名、社会教育実習生等 2 名）が担った。スタッフは前日から宿泊し準備や試作、最終的な打ち合わせをして参加者を出迎えた。今回の参加者は静岡県東部 7 市町と愛知県の小学校 4~6 年生 28 名であった。

1 日目 [9月8日 (土)]



《はじめの会》

「よろしくね!」のごあいさつ



《アイスブレイク》

「球を落とすな…慎重に!」



《プログラム①》

ミッション達成でカード Get!



《アウトドアクッキング》

お好み焼き！上手に返せるかな？



《楽しい食事タイム》

みんなで食べるとおいしいね！



《ナイトプログラム》

感動のキャンドルサービス

2日目 [9月10日 (日)]



《朝の様子》

寝袋も自分で片付けます



《プログラム②》

自分だけのリースに写真を飾ったよ！



《おわりの会》

「楽しかった～」

《参加した子供の声》 ※一部抜粋

- ・緊張したけど、みんなと仲良くなれた。
- ・中学生も参加できるようにしてほしい。
- ・スタッフさんの対応が嬉しかった。
- ・いろいろな人と友達になれて良かった。
- ・プログラムはどれも楽しかった。
- ・来年は友達にも紹介したい。
- ・参加して自分が変わったし、班で協力することもできた。



○キャンプを終えて

《企画メンバーの感想》

- ・雨天用のプログラムでしたが、子供たちが満足してくれたので良かった。
- ・子供やスタッフの笑顔が絶えない、とても明るい気持ちになれたキャンプでした。
- ・ボランティアの経験者がリーダーとなり、いろいろ教えてくれたことが勉強になりました。
- ・時間調整など、全体進行が指示を出してくれたので、多少の問題も助け合い乗り越えることができた。スタッフ達の連携がとれており、安心して活動に臨めた。

《成果と課題》

ボランティアが主体的に考え、アイデアを生み出し、子供たちと積極的に関わり活動したことで、当日は雨天であるにも関わらず、笑顔があふれるキャンプとなった。また、子供たちにとっても、新たなコミュニケーションをとるきっかけとなった。今後、ボランティアには、さらなる自主企画事業に参加できるような活躍の場の提供など、成長につながる環境を整えていきたい。